

東京 シンフォニエッタ

第45回定期演奏会

イスラエルからの風
〈全曲日本初演〉

イオセブ・バルダナシユヴァリ

ヴェルディバ.....[2013]
ヤイル・クレータク

ダン・ユハス

リバーカ・ジョンズ [2015]
ルーベン・セルツ

空間はあり余っている [2016]

レゾナンス [2001]

有馬純晴

Wind from Israel

2019.7.10 [WED]
18:30 開場
19:00 開演

東京文化会館 小ホール

〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111

全席自由 一般 4,000円 学生 2,000円

〔出演〕 指揮：板倉康明 ホルン：有馬純晴
演奏：東京シンフォニエッタ

主催：一般社団法人 東京シンフォニエッタ 制作協力：東京コンサーツ

助成：芸術文化振興基金  公益財団法人 NOMURA 野村財団 /
公益財団法人 花王 芸術・科学財団 / 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション /
公益財団法人 三菱 UFJ 信託芸術文化財団

後援：イスラエル大使館  ※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。

イスラエルからの風

ごあいさつ

東京シンフォニエッタ音楽監督 板倉 康明

今回の定期は「イスラエルからの風」として、イスラエル在住の作曲家たちに焦点を当ててみました。国としては新しいイスラエルですが、ユダヤ人として考えて、歴史的に見てみると、その国の人々は音楽のみに限らず、文化を含めありとあらゆる場面で活躍しています。

二、三年前、今回の演奏会でも取り上げる、ダン・ユハス氏が来日され、さまざま話をしていっているうちに、イスラエルと言う国の作曲家、作品についてしっかり考えて取り上げる機会はなかった事に気がついて、彼とも相談しながら今日のプログラムを考えてみました。今までに、イスラエル人作曲家の作品を演奏した事はありませんが、全員がイスラエル人というのは初めてです。文化的にも大変興味深いものを持っているこの国で活動している作曲家は、どのような風景の中で生活し、その音楽を作っているのかをみなさんと一緒に感じてみたいと思います。

西風、東風、と言うのは文化的にわかりやすい表現ですが、そのどちらにも属さないはっきりしたアイデンティティーを持った国、イスラエルからの風と一緒に受けて、どちらかの方向に進めたら、今後の文化の行き先も見えるかも知れません。

東京シンフォニエッタが「帆」になったつもりで演奏したいと思います。

Music Director
板倉康明

Flute
斎藤和志
齋藤光晴
下松桐子

Oboe
辻 功
渡辺康之

Clarinet
西澤春代
佐藤和歌子
川越あさみ

Bassoon
多田逸左久
長 哲也
守屋有紀

Horn
有馬純晴
中島大之
岸上 穰

Trumpet
高橋 敦
坂井俊博

Trombone
西岡 基

Tuba
渡辺 功

Saxophone
小串俊寿

Percussion
松倉利之
和田光世
石崎陽子

Harp
木村茉莉

Piano
藤原亜美

Violin
山本千鶴
海和伸子
梅原真希子

Viola
百武由紀
吉田 篤
守山ひかる

Cello
花崎 薫
高麗正史
宇田川元子

Contrabass
吉田 秀
那須野直裕

Electronics
有馬純寿



<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ts/>



ソリスト 有馬純晴 (ホルン)

東京都出身。東京芸術大学卒業と同時に東京都交響楽団入団。3年後から首席ホルン奏者となり現在に至る。1年間英国ロンドンに留学。アレキサンダー・ホルン・アンサンブルジャパン、東京シンフォニエッタ、東京アーバン・アンサンブルメンバー。全音楽譜出版社によるオーケストラ名曲のホルンパート集であるオーケストラな一日 for Horn を監修。2001年から10年間日本ホルン協会の副会長を務める。

チケット予約

■ 東京コンサーツ (問合せ先)
03-3200-9755 (平日 10:00-18:00)
<http://tokyo-concerts.co.jp>

■ 東京文化会館チケットサービス
03-5685-0650 (10:00-19:00 休館日を除く)
<http://www.t-bunka.jp/>

ダン・ユハス(1947-)

ハンガリー生まれ、テルアビブ大学で学んだのち、ロンドンとパリで研鑽を積む。1991年、イスラエル・コンテンポラリー・プレイヤーズを設立。2011年にはズービン・メータ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団によって『リフレクションズ』が初演され、2014年にアルディッティ弦楽四重奏団らが演奏する室内楽作品集のCDがVERSOから発売された。テルアビブ大学ブッフマン＝メータ音楽学校作曲科で作曲と対位法を教える。



イオセブ・バルダナシュヴィリ(1948-)

1948年、ジョージアのバトゥミに生まれる。トビリシ音楽院で学び、1976年に作曲の博士号を取得。1995年からイスラエルに定住。さまざまな編成の作品に加え、舞台音楽の創作に力を注ぎ、50の映画、55の演劇のために作曲。現在はテルアビブ大学とエルサレム音楽舞踊アカデミーで教鞭を執る。同名の自作のオペラにもとづく交響詩『千年紀末への旅』(2005)は2015年、ズービン・メータ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団によって演奏された。



© Dudu Bakhar

ルーベン・セルツシ(1959-)

ウルグアイ生まれ、1974年以降イスラエルに在住。テルアビブ大学でレオン・シドロウスキに学ぶ。その作品はアンサンブル・ニケル、アンサンブル・コントロール・ニケルなどによって演奏されている。ギタリストとしても活動し、古典から現代まで幅広いレパートリーを手がける。2017年、メイトル・アンサンブルによる室内楽作品集のCDがNEOSから発売された。2003年よりテルアビブ大学ブッフマン＝メータ音楽学校作曲科主任。



© Abshalom Levi

ヤイル・クラータク(1985-)

イスラエル生まれ、テルアビブ大学でルーベン・セルツシ、バーゼル音楽院で学ぶ。現在、ゲオルク・フリードリヒ・ハース指導のもとコロムビア大学博士課程に在籍。第31回入野賞の受賞作『双極性無秩序』(2010)は翌年東京シンフォニエッタによって世界初演が行われ、2018年には現代音楽祭「ウルトラシャル・ベルリン」でエンノ・ポッベ指揮ベルリン放送交響楽団により『重力の力で』(2013)の5度目の再演が行われた。



第46回定期演奏会「現代の感性——邦人作曲家の国際性」

2019年12月9日 [MON] 19:00 開演
トッパンホール

指揮: 板倉 康明
演奏: 東京シンフォニエッタ

- ◆ 稲森安太己(1978-) : 思惑〜大アンサンブルのための(2019、舞台初演)
- ◆ 荻田翔一(1983-) : 弦楽四重奏曲(2019、舞台初演)
- ◆ マリソル・ヒメネス(1978-) : XLIII 生きている記憶(2015、日本初演)〜第39回入野賞受賞作品〜
- ◆ 新実徳英(1947-) : 室内協奏曲Iーアクア(2009年委嘱作品・全曲初演)

※出演者、曲目は予告なしに変更になる場合がございます。